



ATS1000 補足マニュアル



はじめに

このたびは、アライドテレシス R&D センター山梨 ATS1000 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ATS1000 ファームウェアのバージョンアップに伴い、最新ファームウェアの導入方法および最新ファームウェアで追加された機能を解説します。

本製品取扱説明書とともに保管いただきますようお願い致します。

目次

1. ファームウェアのアップデートの手順.....	3
2. 追加機能の紹介.....	3
3. 取扱説明書の補足.....	4
SNMP を用いてシステムを監視する.....	4
SMTP サーバを指定する.....	5
他機器との接続.....	7
1.UPSの接続例.....	7
2.プリンタの接続例.....	8
セキュリティ設定について.....	22
アクセス制限の書式.....	26
ダイアログメッセージ.....	27

1. ファームウェアのアップデートの手順

①ATS1000 の設置

同梱の設置マニュアルにしたがって ATS1000 を設置します。

②電源投入～FrontView(管理用 Web コンソール)の表示

同梱の取扱説明書(冊子)の 16 ページ～19 ページの手順に従って、ATS1000 の管理用 Web コンソール「FrontView」を表示させます。(19 ページの図 1-6 の状態にします。)

③「詳細設定」モードへの切り替え

FrontView の「詳細設定」ボタンをクリックして、「詳細設定モード」へ切り替えます。

④管理用メールアドレスの設定

ATS1000 はファームウェア更新のステータスをメールとして送信するため、メールアドレスを設定します。

1. 「システム設定」ボタンをクリックします。
2. 「メールアドレス1」欄にメールアドレスを入力します。
3. 「適用」ボタンをクリックします。

⑤ファームウェア更新の実施

ファームウェアを ATS1000 に送信し、更新を実行します。

1. 「システム設定」ボタンをクリックします。
2. 「システム更新」タブをクリックします。
3. 「ローカル」タブをクリックします。
4. 取扱説明書の 46 ページを参照にファームウェアイメージを ATS1000 にロードします。

⑥システムの再起動

ファームウェアのロード・更新を実施すると、再起動の操作が必要になります。47 ページの図 2-13 が表示されるので、「シャットダウン」チェックボックスをクリックし、「適用」をクリックしてください。

ファームウェア更新時の再起動には 5 分ほど時間がかかります。ブラウザを閉じて再起動が完了するのを待ちます。

⑦再起動完了～初期設定

再起動が完了すると、LAN ステータス LED が点灯します。

再び FrontView を開き、「基本設定ウィザード」ボタンをクリックします。

以上で、全ての最新版ファームウェアの導入が完了します。ATS1000 の初期設定を行うために、取扱説明書 16 ページ以降の手順に従って設定を進めてください。

2. 追加機能の紹介

最新ファームウェアでは、以下の機能が新たに追加されました。

- ①SNMP モニタリング/トラップ機能
- ②CSV ファイルによるユーザー一括登録機能
- ③SMTP サーバ指定機能

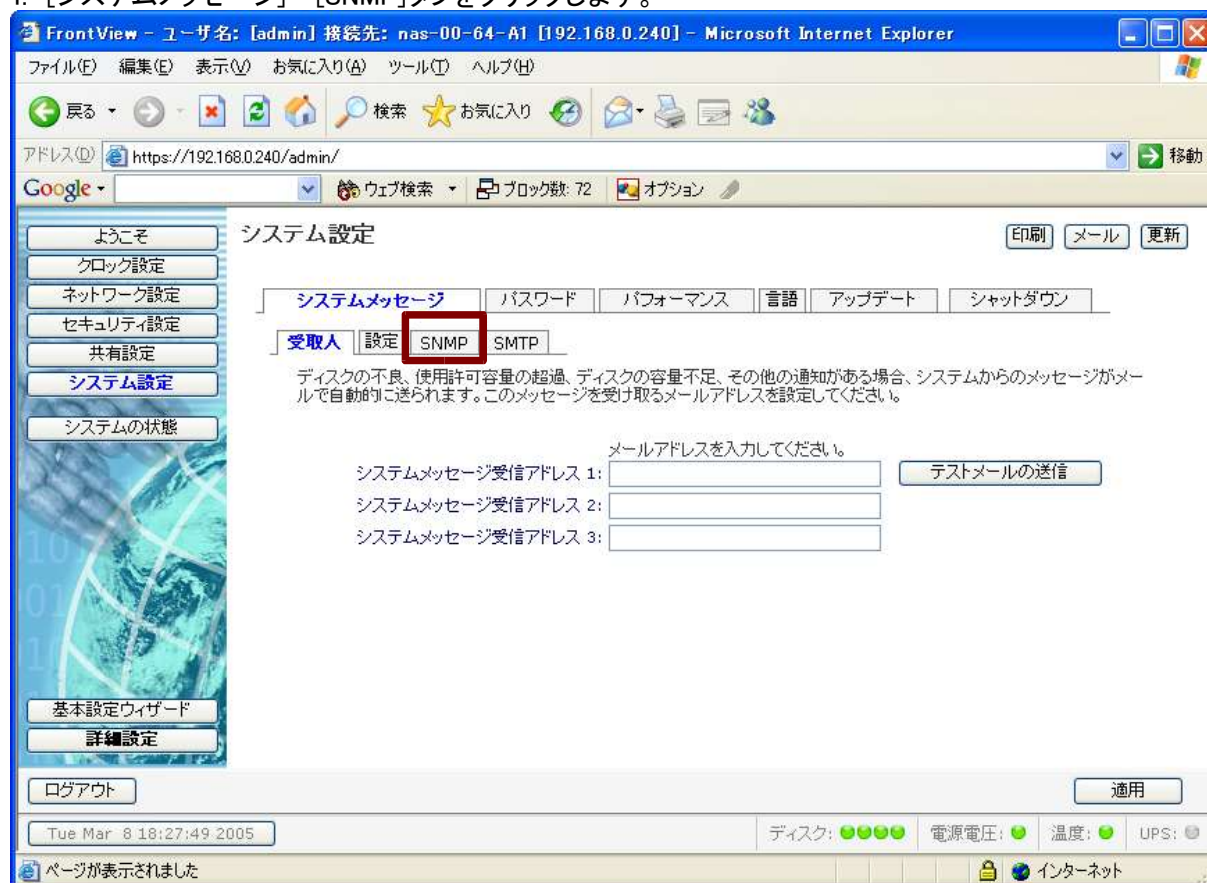
3. 取扱説明書の補足

SNMP を用いてシステムを監視する

ATS1000 は SNMP による集中監視に対応しています。SNMP 機能を有効にする手順を説明します。

設定方法

1. FrontView を開きます。
2. [詳細設定]に切り替えます（既に[詳細設定]モードになっていれば、この操作は不要です）。
3. [システム設定]ボタンをクリックします。
4. [システムメッセージ]→[SNMP]タブをクリックします。



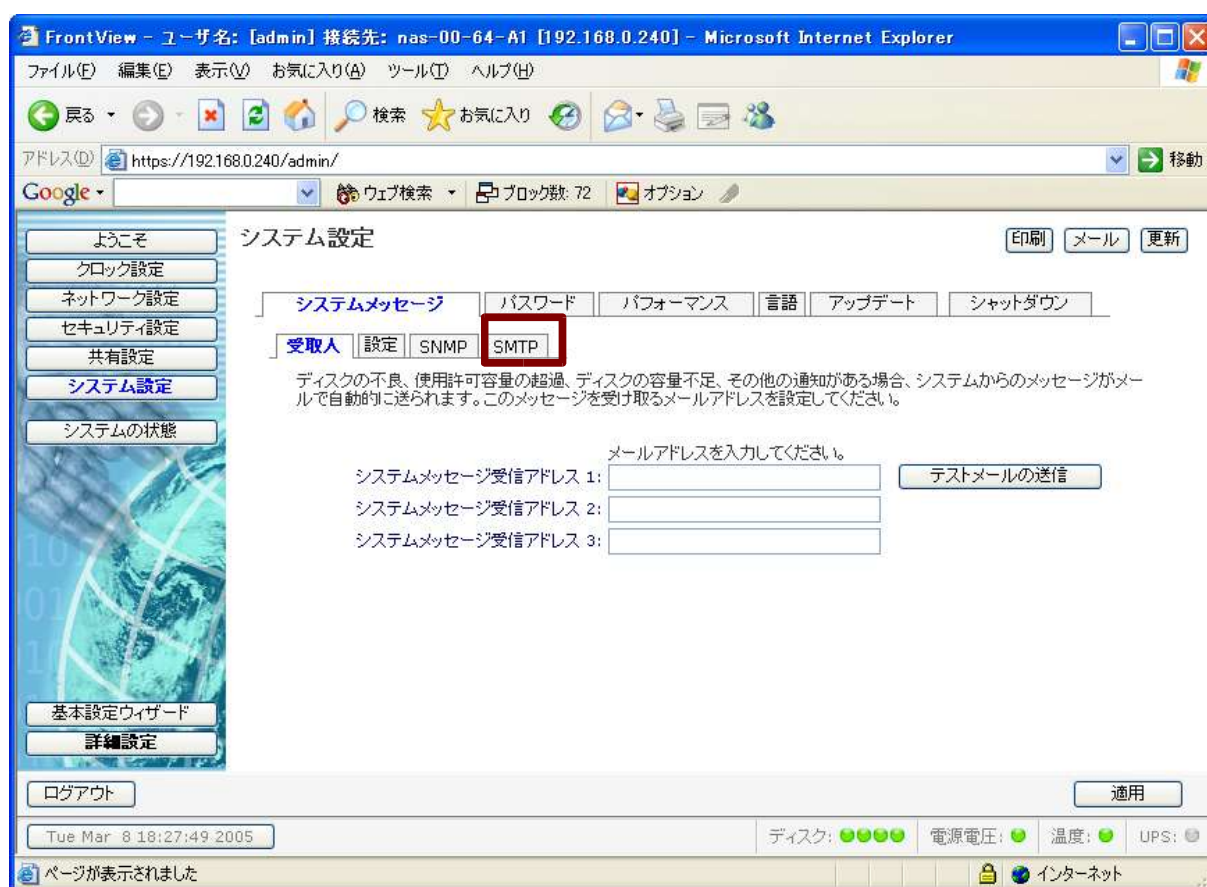
5. [SNMP サービスを有効にする]チェックボックスをオンにします。
6. [コミュニティ名]、[トラップのあて先]、[SNMP モニタリングを許可するホスト]を入力し[適用]をクリックします。

SMTP サーバを指定する

ATS1000 はメールを用いて装置上で発生したイベントを通知することができます。このとき、メールを送付する SMTP サーバは DNS の情報をもとに自動的に設定されますが、ファイアウォールの設定などによりメールが送付できない場合があります。このような場合、SMTP サーバを手動で設定することで、このような問題を回避できます。

設定方法

1. FrontView を開きます。
2. [詳細設定]に切り替えます(既に[詳細設定]モードになっていれば、この操作は不要です)。
3. [システム設定]ボタンをクリックします。
4. [システムメッセージ]→[SMTP]タブをクリックします。



5. [SMTP サーバ]フィールドに SMTP サーバ名(DNS 名または IP アドレス)を入力し、[適用]をクリックすると、設定できます。



FrontView - ユーザ名: [admin] 接続先: nas-00-64-A1 [192.168.0.240] - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 印刷 検索 お気に入り 移動

アドレス(AD) https://192.168.0.240/admin/

Google ウェブ検索 ブロック数: 72 オプション

ようこそ システム設定 印刷 メール 更新

クロック設定 ネットワーク設定 セキュリティ設定 共有設定 システム設定 システムの状態

基本設定ウィザード 詳細設定

ログアウト 適用

Tue Mar 8 18:29:53 2005 ディスク: 電源電圧: 温度: UPS:

ページが表示されました インターネット

システム設定

システムメッセージ パスワード パフォーマンス 言語 アップデート シャットダウン

受取人 設定 SNMP SMTP

もし、ファイアウォールの設定等によりシステムメッセージが届かない場合は、指定した SMTP サーバを用いてシステムメッセージを送信することができます。

SMTP サーバ:

他機器との接続

ATS1000 の背部には2つの USB ポートがあります。これらの USB ポートを利用して、UPS(無停電電源装置)やプリンタを接続することができます。

1.UPSの接続例

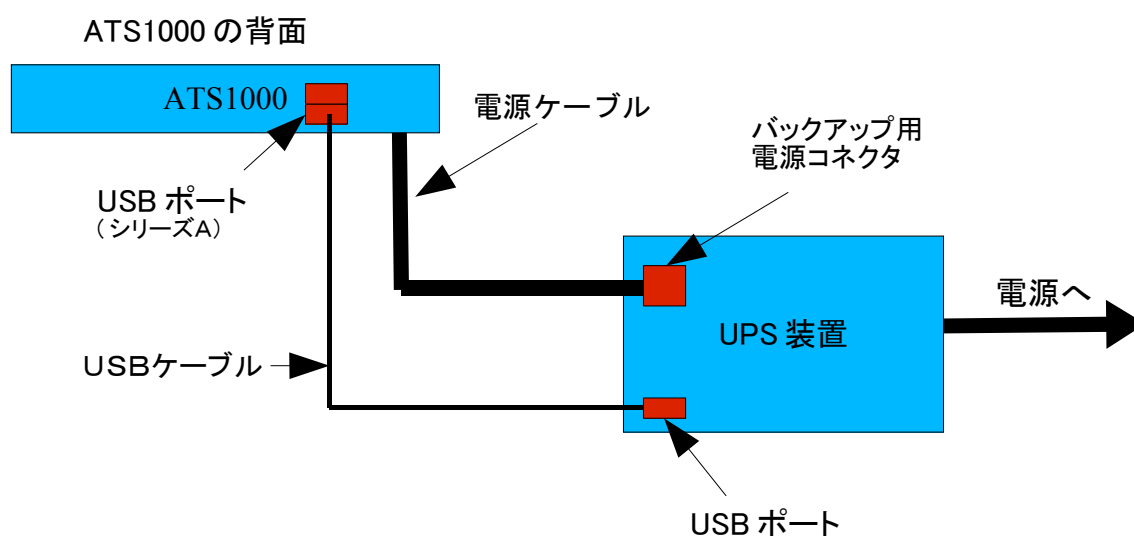
ATS1000 は堅牢なデータ保護機構を持っていますが、堅牢性をより高めるために UPS 等を用いて予期せぬ電源遮断に備えることをお勧めします。ATS1000 は USB を用いて信号を送るタイプの UPS をサポートしています。ここでは UPS の接続例を説明します。

① 準備 (ATS1000 以外に必要なもの)

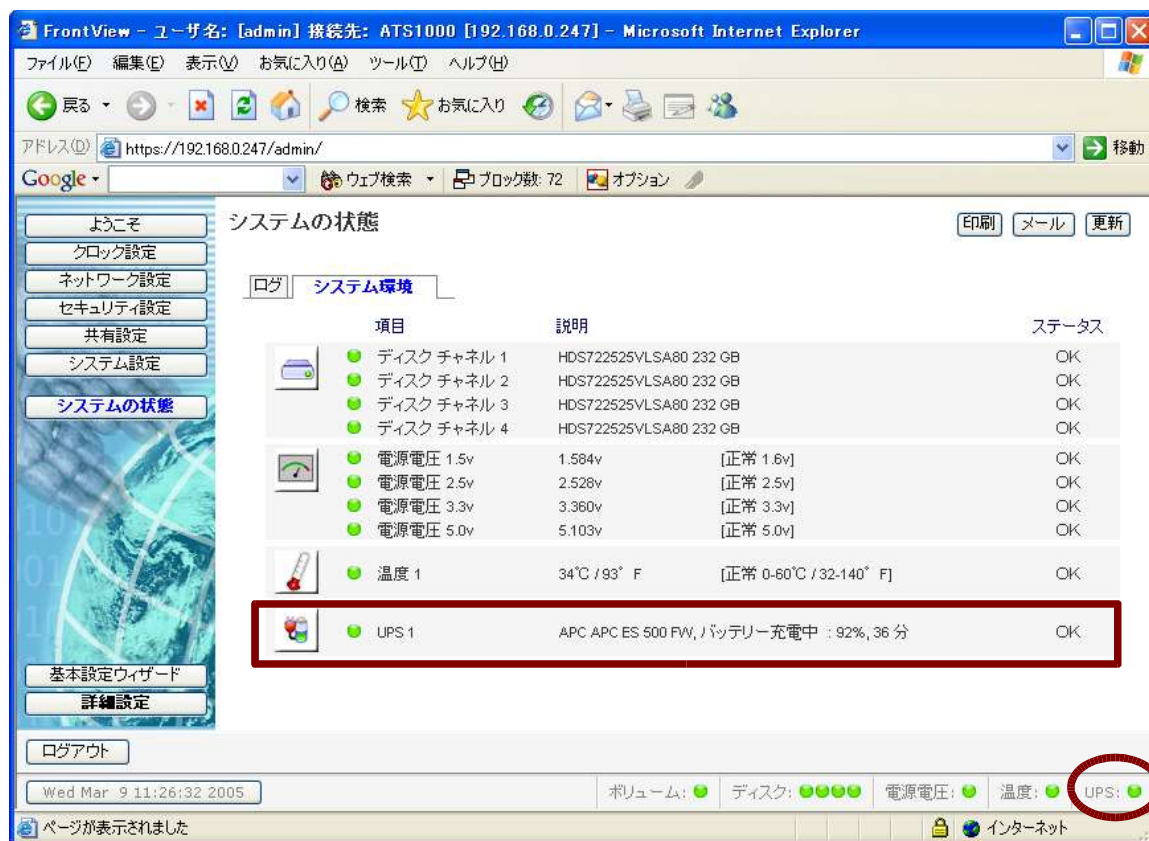
- USB ポートをもつ UPS(無停電電源装置)
- USB ケーブル(ATS1000 側コネクタ:シリーズ A)
- 設定用 PC(NIC が使用出来ること)

②接続

ATS1000 と UPS の接続



接続した UPS が ATS1000 から認識されると、FrontView のステータスバーにある UPS のランプアイコンが緑色になります。また、[システムの状態]のシステム環境タブで、接続した UPS の状態が確認できます。



電源の遮断が起きると、UPS は内部バッテリーから ATS1000 へ電源の供給を行います。バッテリーの残量が決められた値を下回ると UPS は USB ポートを通して ATS1000 へ信号を送り、その信号を受け取った ATS1000 は即座にシステムのシャットダウンを開始します。

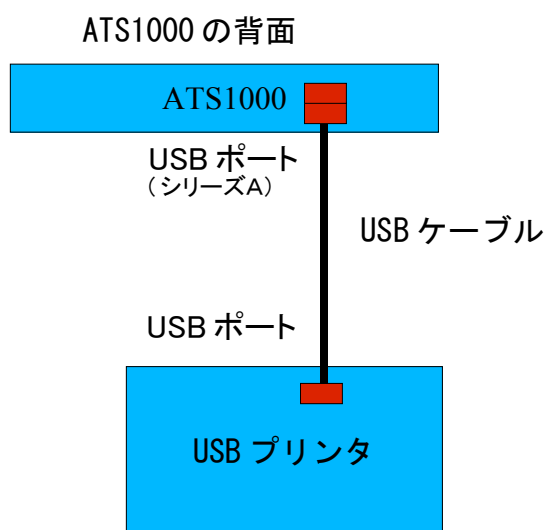
2. プリンタの接続例

ATS1000 に USB プリンタを接続することで、ATS1000 をプリントサーバとして使用することが出来ます。ここでは ATS1000 をプリントサーバとして使用する場合の接続例と設定例を説明します。

① 準備 (ATS1000 以外に必要なもの)

- USB ポートをもつプリンタ
- USB ケーブル(ATS1000 側コネクタ:シリーズ A)
- プリンタ用のドライバ
- 設定用 PC(NIC が使用出来ること)

② ATS1000 とプリンタの接続



③ プリンタドライバの設定例 (WindowsXP)

ATS1000 ではプリントサーバ側に配布用のドライバを持つ機能をサポートしていないため、クライアント側 PC にドライバをインストールする必要があります。

i. 接続したプリンタが ATS1000 に認識されているかの確認

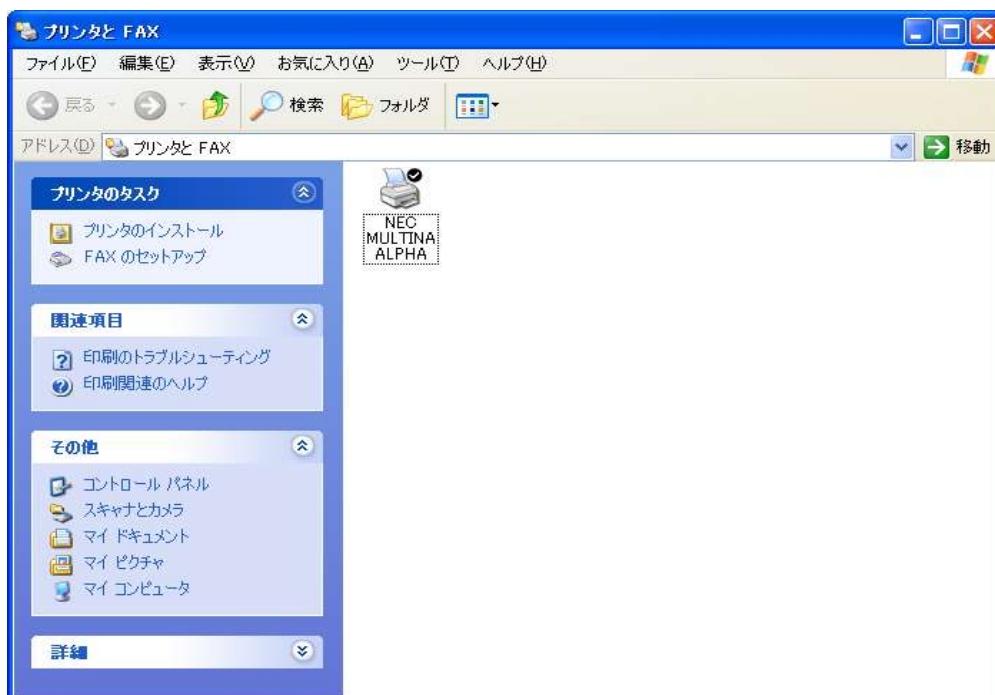
1. プリンタの電源を入れます。
2. ATS1000 を起動します。
3. 設定用 PC から FrontView を立ち上げ、共有設定のプリンタタブを開きます。
4. ATS1000 が認識したプリンタのリストが表示されます。



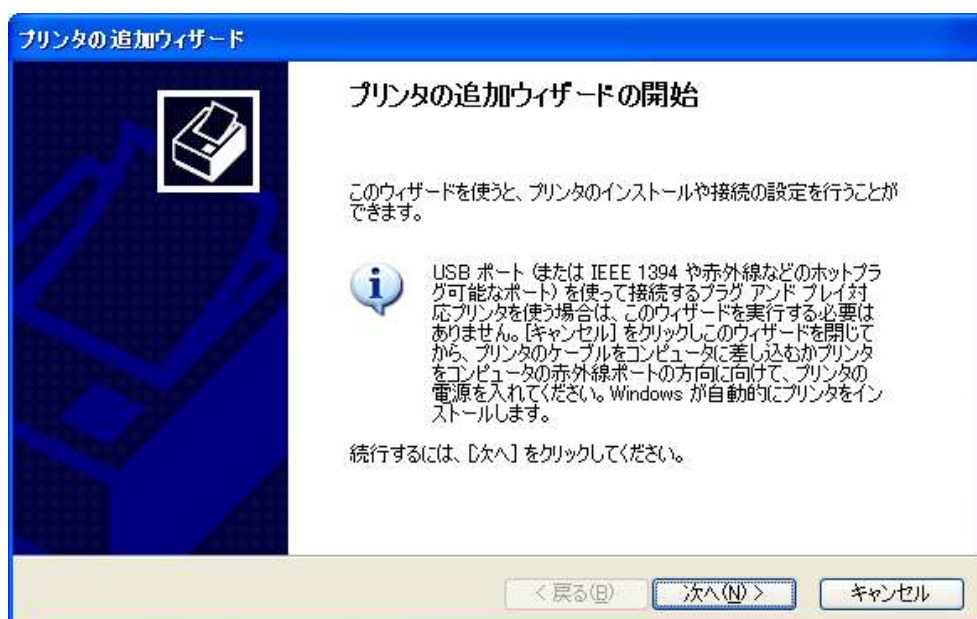
ii. ダミープリンタのインストール

クライアント PC に ATS1000 に接続したプリンタを認識させるには、そのプリンタ用のドライバを一度クライアント PC にインストールしておく必要があります。このためダミーのプリンタをインストールします。

1. [スタート]メニューの[プリンタとFAX]をクリックし、さらに画面左の[プリンタのインストール]をクリックします。



2. プリンタの追加ウィザードが起動します。[次へ]ボタンをクリックします。



3. [このコンピュータに接続されているプリンタ]をチェックします。さらに[プラグアンドプレイ 対応プリンタを自動的に検出してインストールする]のチェックを外して、[次へ]ボタンをクリックします。

プリンタの追加ウィザード

ローカル プリンタまたはネットワーク プリンタ
設定するプリンタの種類を指定してください。

使用するプリンタの種類を指定してください。

☒ このコンピュータに接続されているローカル プリンタ(L)
☐ プラグ アンド プレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする(A)
☐ ネットワーク プリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ(E)

 プリント サーバーに接続されていないネットワーク プリンタの設定を行うには、ローカル プリンタのオプションを選択してください。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

4. プリンタのポートを選択します。このプリンタはダミーなので、どのポートを指定してもかまいません。ここでは LP2 ポートを使用します。[次へ]ボタンをクリックします。

プリンタの追加ウィザード

プリンタ ポートの選択
コンピュータはポートを介してプリンタと通信します。

プリンタのポートを選択してください。ポートが一覧にない場合は、新しいポートを作成できます。

☒ 次のポートを使用(U): **LPT2 (プリンタ ポート)**

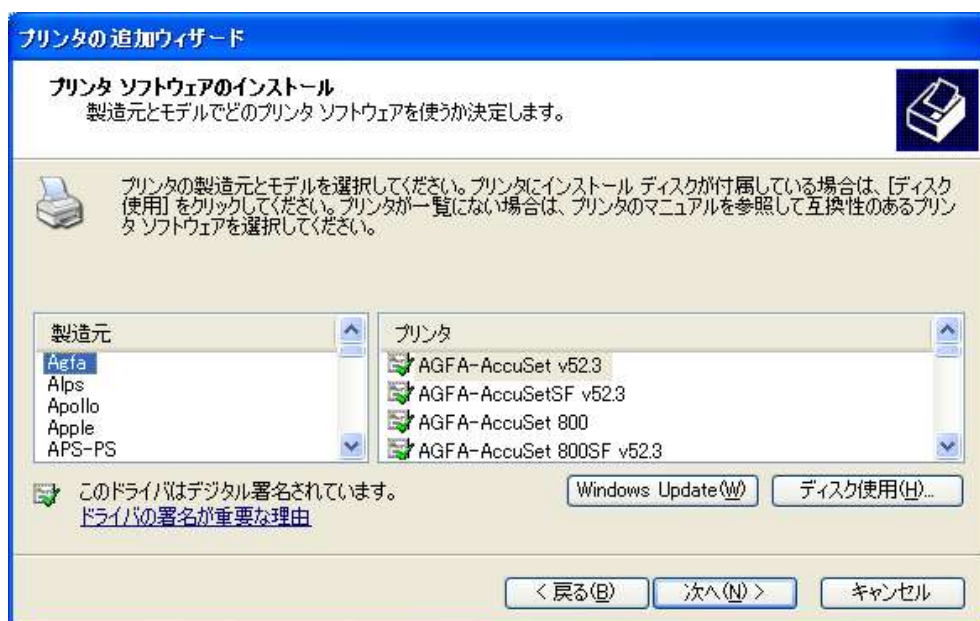
注意: ほとんどのコンピュータは LPT1: ポートを使ってローカル プリンタと通信します。このポートのコネクタはこのような形状をしています:



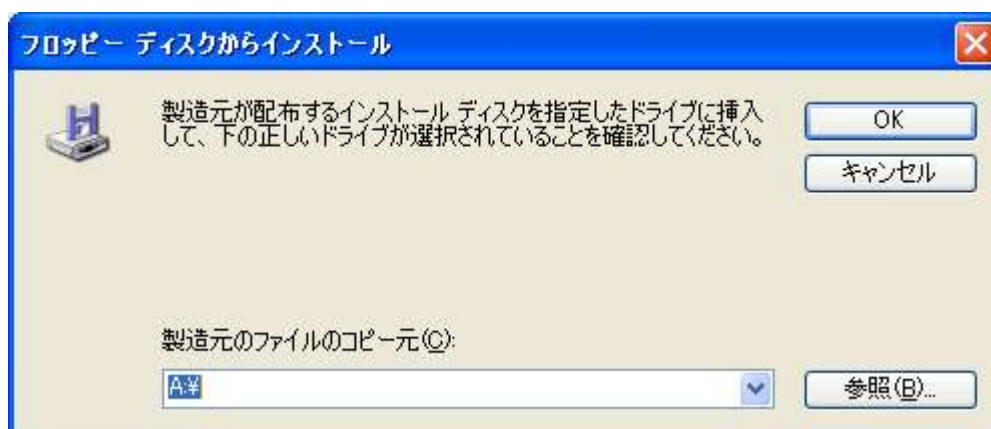
☐ 新しいポートの作成(C):
ポートの種類: **Local Port**

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

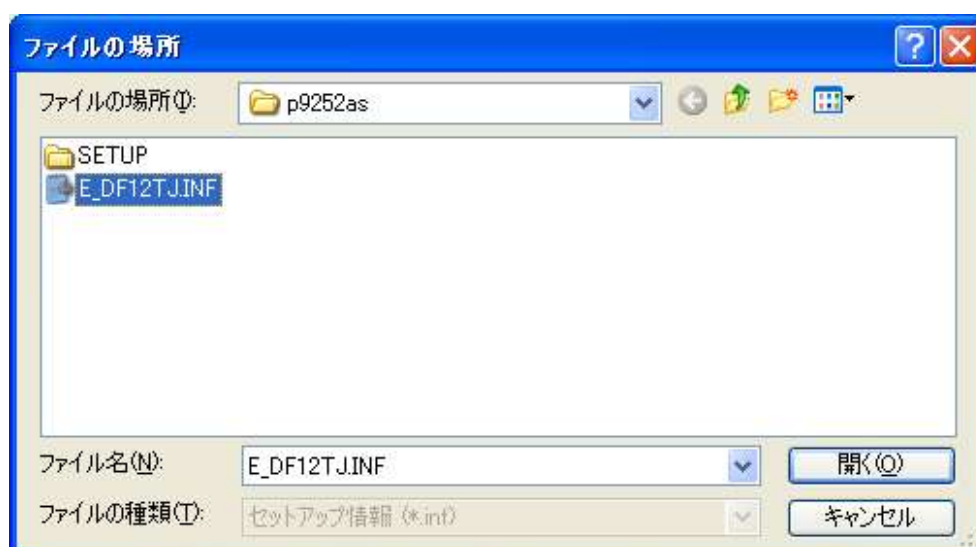
5. プリンタ付属の付属のドライバディスクを用意して、[ディスク使用]ボタンをクリックします。



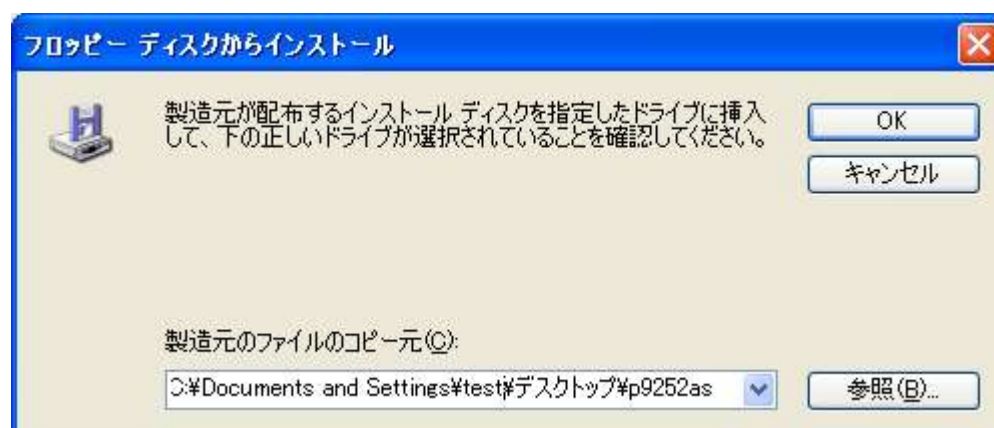
6. [参照] ボタンをクリックしてドライバのある場所を指定します。



7. ドライバのある場所を指定して、[開く]ボタンをクリックします。



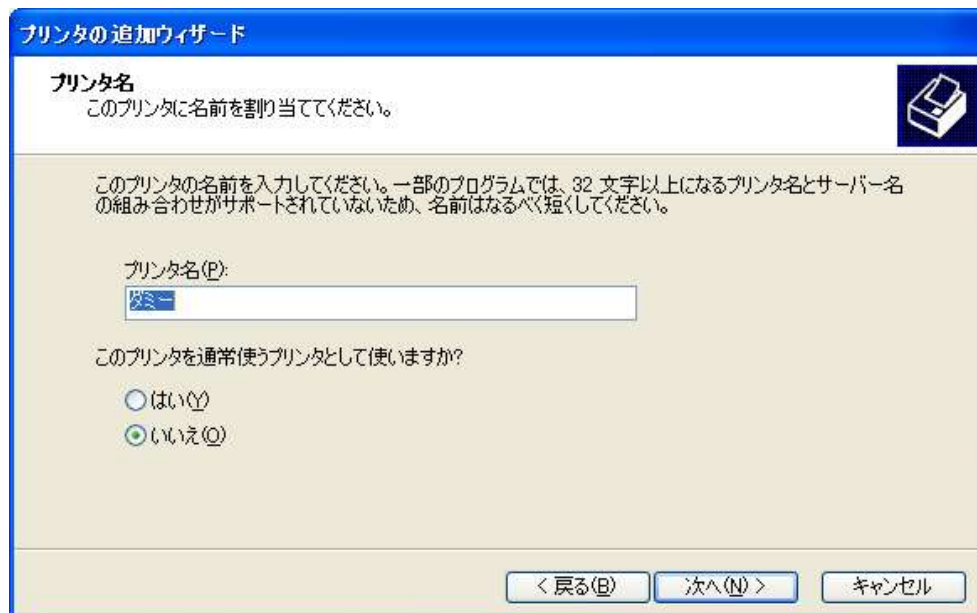
8. [OK] ボタンをクリックして続行します。



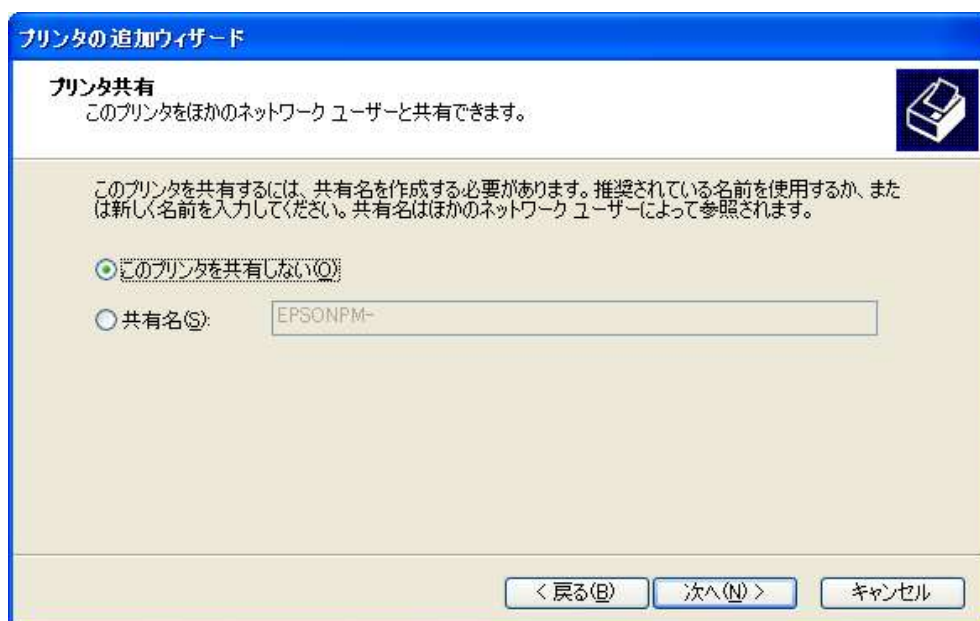
9. 使用するプリンタを選択して[次へ]をクリックします。



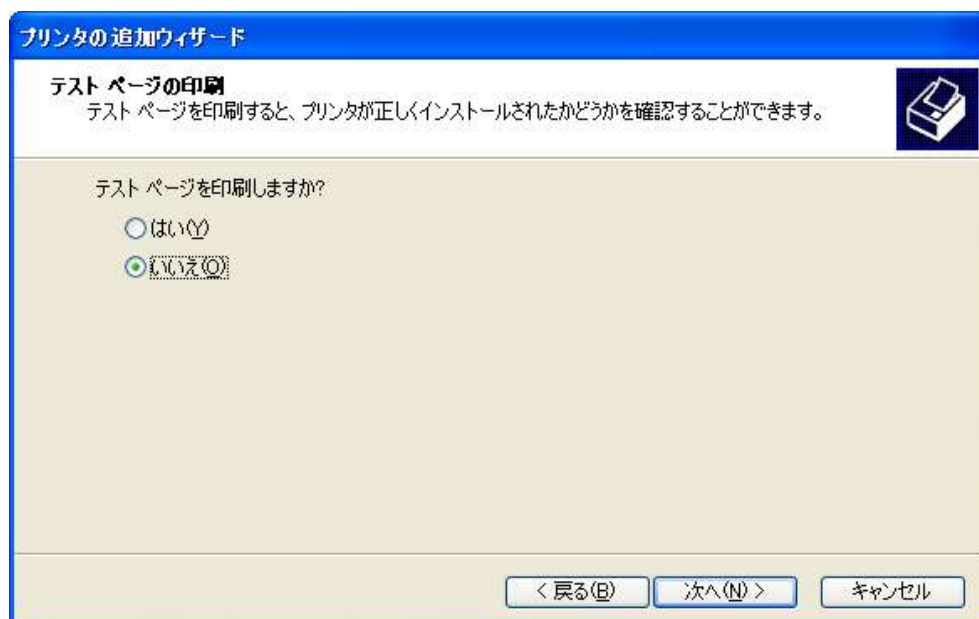
10. プリンタ名を入力します。[このプリンタを通常使うプリンタとして使いますか?] というオプションは [いいえ] を選び [次へ] ボタンをクリックします。



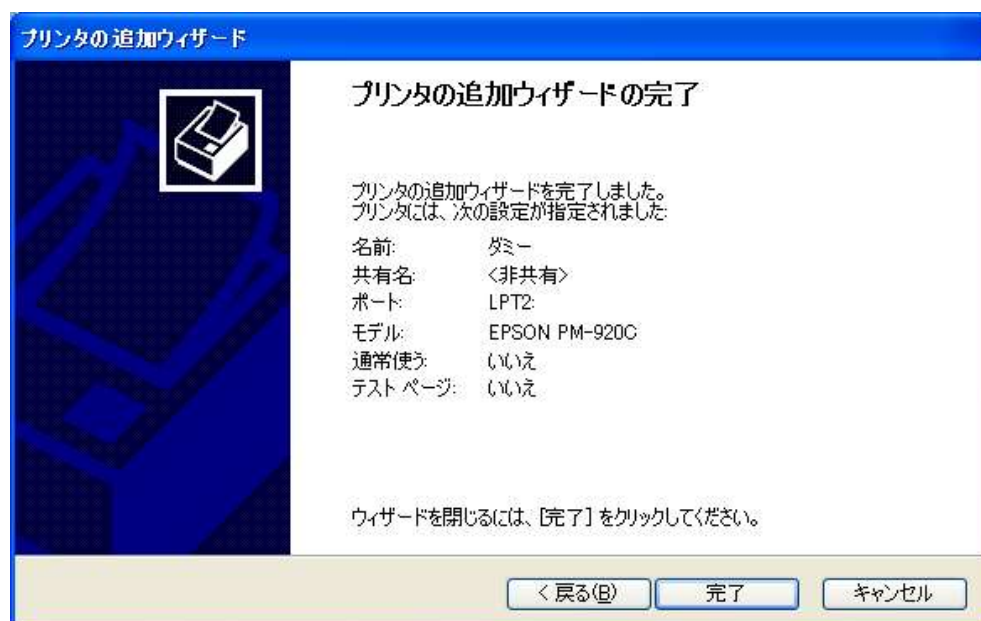
11. プリンタ共有の設定では、[このプリンタを共有しない] をチェックして[次へ]をクリックします。



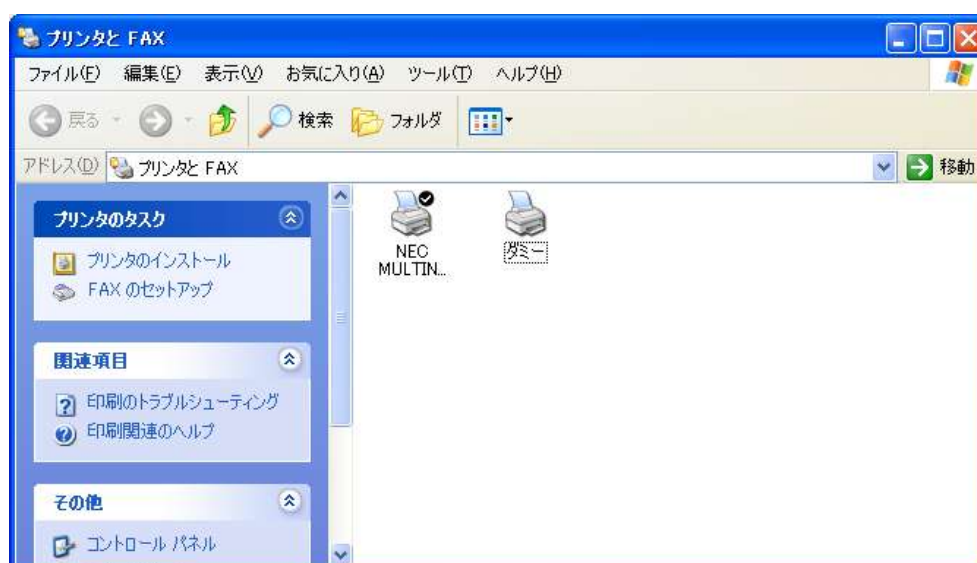
12. テストページの印刷は行わないでください。[いいえ]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



13. [完了]ボタンを押してウィザードを終了させます。

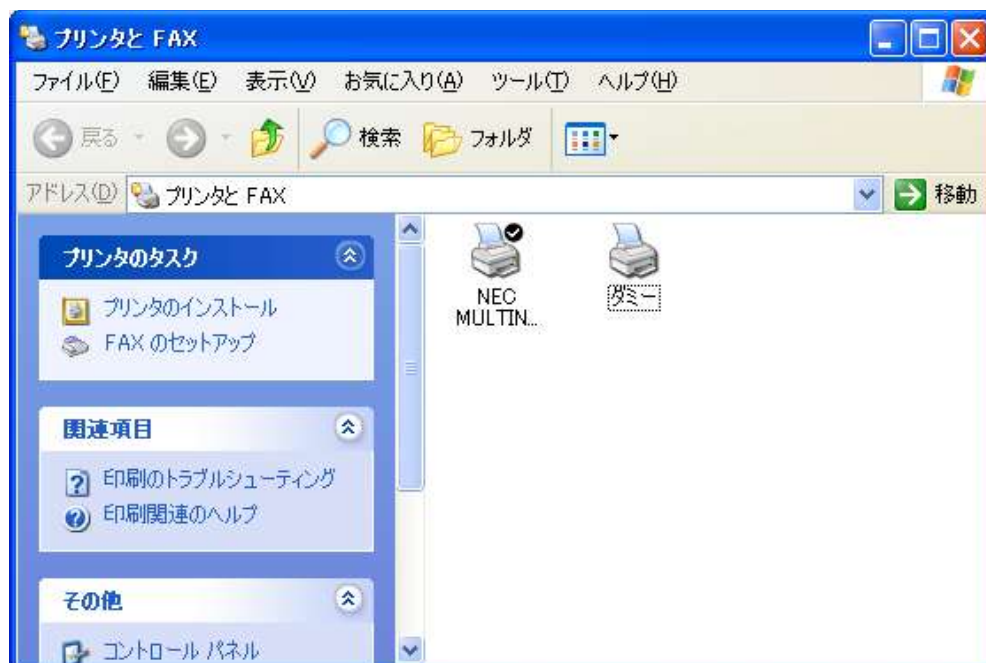


15. ここでインストールしたプリンタはダミーですので、削除してもかまいません。

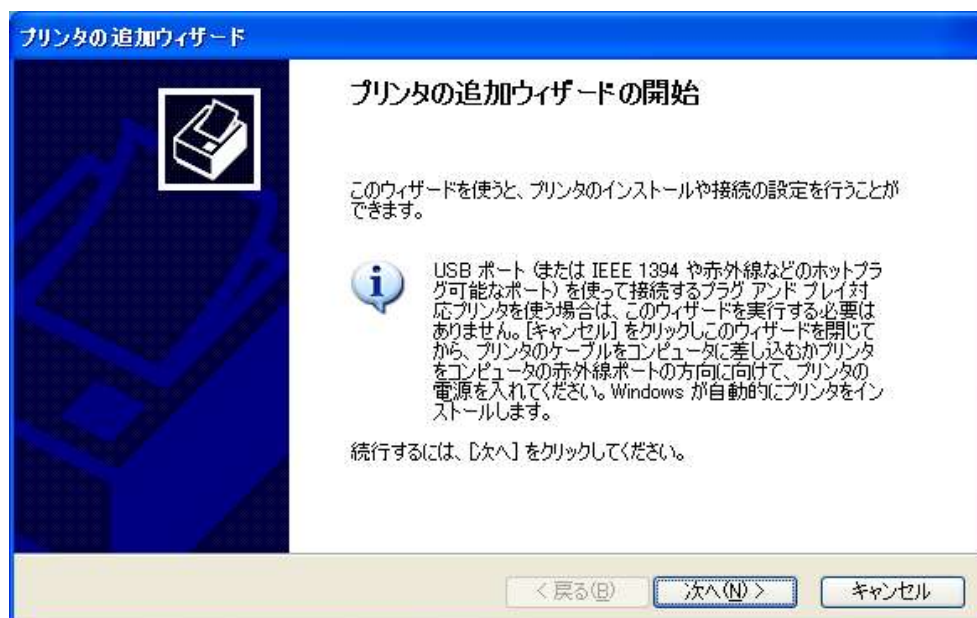


iii. プリンタのインストール

1. [スタート]メニューの[プリンタとFAX]をクリックし、さらに画面左の[プリンタのインストール]をクリックします。



2. プリンタの追加ウィザードが起動します。[次へ]ボタンをクリックします。



3. [プリンタを参照する]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。

プリンタの追加ウィザード

プリンタの指定
プリンタの名前またはアドレスが不明な場合は、プリンタを検索することができます。

接続するプリンタを指定してください。

☒ **プリンタを参照する(W)**

☐ 指定したプリンタに接続する (プリンタを参照するにはこのオプションを選択して [次へ] をクリック) (Q):

名前:

例: \\server\printer

☐ インターネット上または自宅/会社のネットワーク上のプリンタに接続する(Q)

URL:

例: http://server/printers/myprinter/printer

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

4. しばらくすると、ホスト名の一覧が表示されます。プリントサーバとして使用する ATS1000 のホスト名をダブルクリックすると、接続されたプリンタ名が表示されます。プリンタ名を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示されるので、[はい]をクリックします。

プリンタの追加ウィザード

プリンタの参照
プリンタの一覧が表示されたら、希望のプリンタを選択してください。

プリンタ(P):

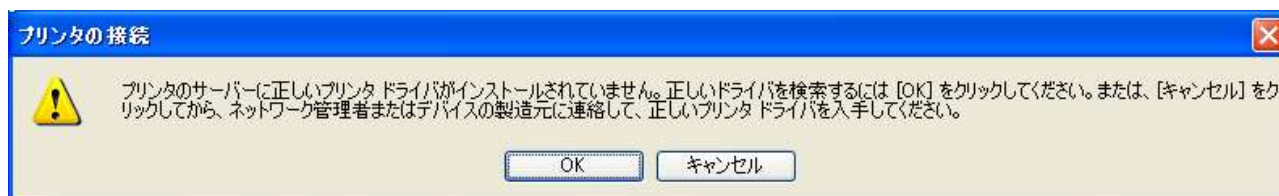
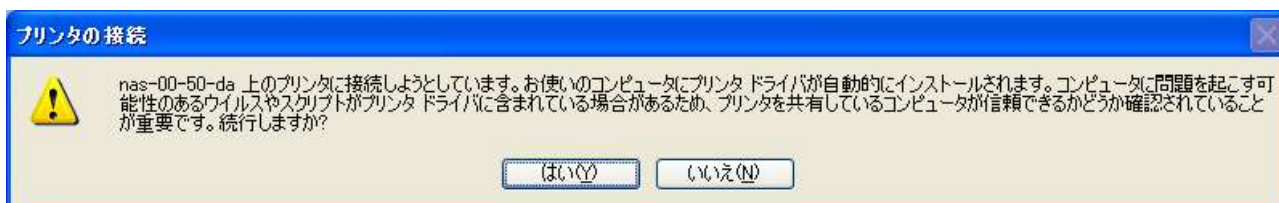
共有プリンタ(S):

LOCAL	
NAS	
NAS-00-50-DA	
EPSON_PM-920C	EPSON printer model PM-920C
PC-21	
R&D	

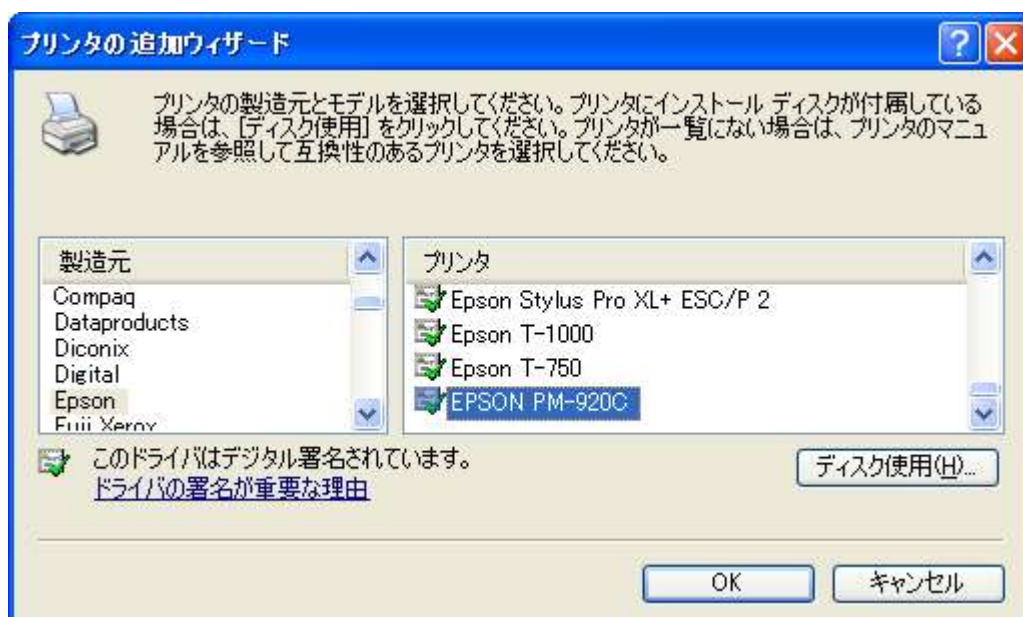
プリンタ情報

コメント:	EPSON printer model PM-920C	
状態:	準備完了	印刷待ちドキュメント: 0

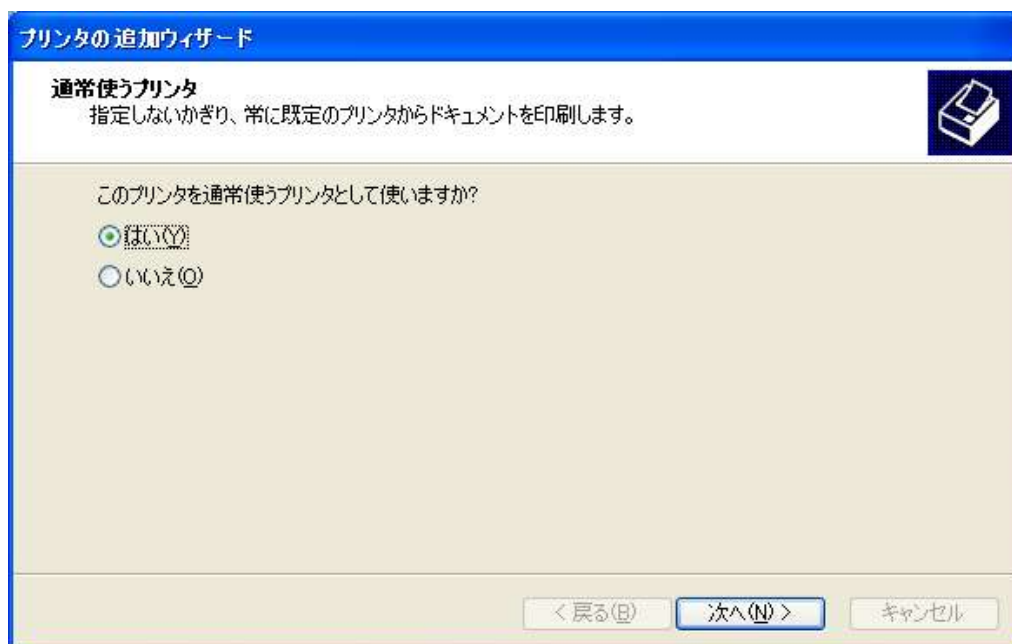
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



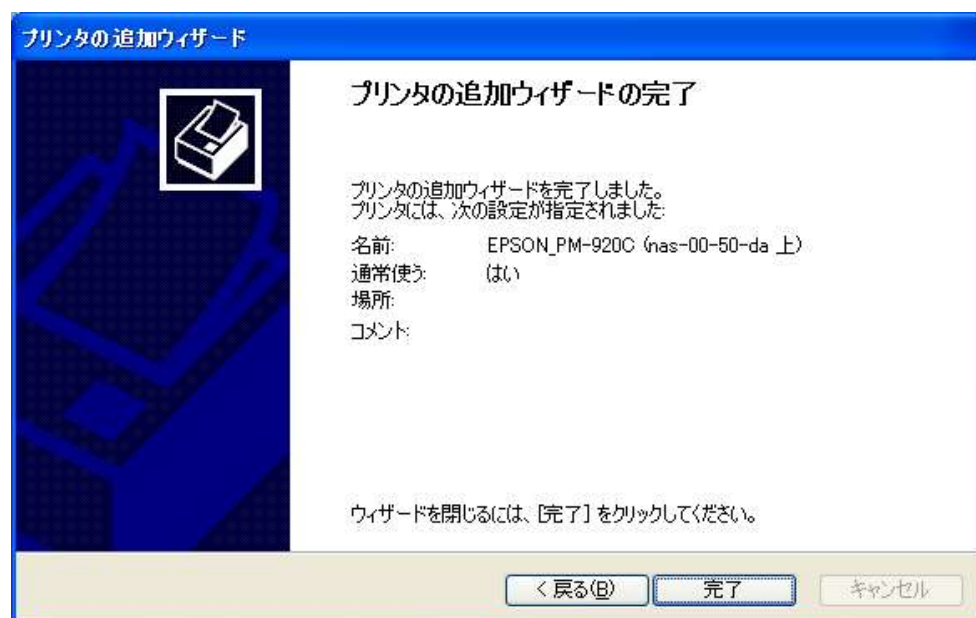
5. ATS1000 に接続するプリンタの製造元とモデルを選択して、[OK]ボタンをクリックします。



6. このプリンタを通常使うプリンタに設定するかどうかを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



7. [完了]ボタンをクリックしてプリンタの追加ウィザードを終了させます。



8. プリンタのインストールが完了しました。



3. 使用できるプリンタの条件

ATS1000 をプリントサーバとして使う場合に使用できるプリンタの条件は次の通りです。

1. USB ポートを持っていること
2. クライアント側の OS に対応したドライバが用意されていること

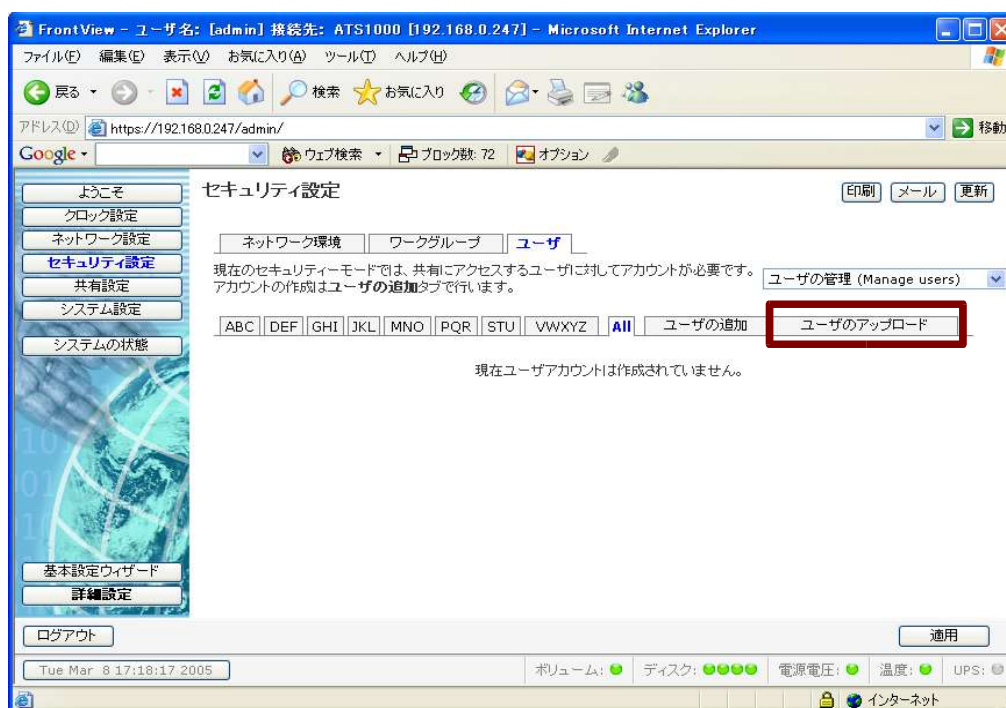
セキュリティ設定について

①ユーザの一括登録

ATS1000 のセキュリティ設定を認証(ATS1000 内での認証)を行うに設定すると、ATS1000 上でユーザを管理ようになります。FrontView から個別のユーザを登録することも可能ですが、ユーザ数が多くなった場合、ユーザの一括登録機能を利用しますと、多数のユーザを登録する際の手間が大幅に軽減されます。

一括登録の手順

1. FrontView を表示させます。
2. FrontView 画面左下の[詳細設定]ボタンをクリックして詳細設定モードにします。(既に詳細設定モードになっている場合、この操作は必要ありません。下図は詳細設定モードの時のウィンドウです。)
3. セキュリティ設定のネットワーク環境タブで、認証(ATS1000 内での認証)を行うをチェックします。
4. ファイルのアクセス制限に関する警告ダイアログが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。
5. 「適用」ボタンをクリックすると、「ユーザー」タブが表示されます。「ユーザー」タブをクリックします。
6. 「ユーザのアップロード」タブをクリックします。



7. CSV ファイルを指定して「適用」をクリックすると、CSV ファイルに記述されているユーザが一括登録されます。

CSV ファイルの書式

CSV ファイルの書式のサンプルを以下に示します。

```
user1,user1
user2,user2,,user2@local.net
user3,user3,group1
user4,user4,group2,user4@local.net
user5,user5,group3,user5@local.net,2000
user6,user6,group4,user6@local.net,2001,20
```

一行が1ユーザの情報になります。先頭から順に、以下の項目が並びます。

1. ユーザ名
2. パスワード
3. グループ名
4. メールアドレス
5. UID
6. クォータ値

以下のルールがあります。

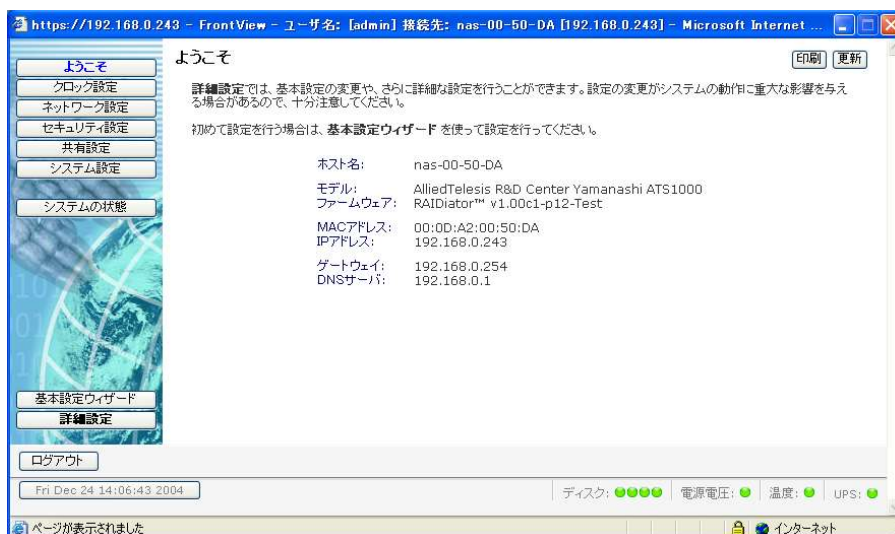
- ・ カンマの周りの空白は無視されます。
- ・ ユーザ名と、パスワードは必須です。
- ・ パスワードは1文字から8文字までの英数字のみ使用できます。
- ・ グループとクォータの指定がない場合は、デフォルト設定が適用されます。
- ・ メールアドレスが指定されていない場合は、メールによるユーザの追加の通知はされません。
- ・ UID の指定がない場合は、自動的に設定されます。
- ・ 指定したグループが存在しない場合は、自動的にグループが作成されます。GID は自動的に設定されます。

ファイルの編集には、テキストエディタのほか、スプレッドシートを作成するソフトウェア(例: MS-Excel 等)がご利用いただけます。

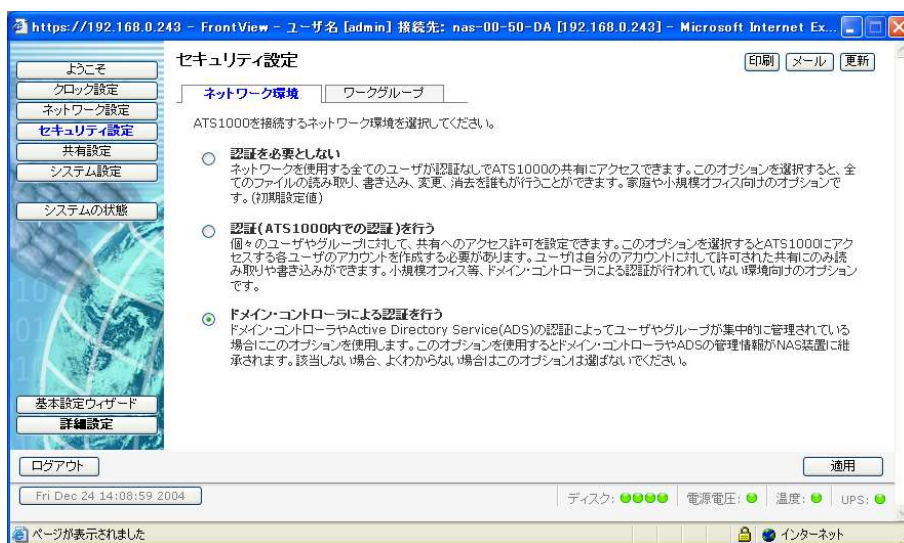
②ドメインへの参加方法

ドメインコントローラで集中管理されている大規模ネットワークで ATS1000 を使用する場合は設定について説明します。

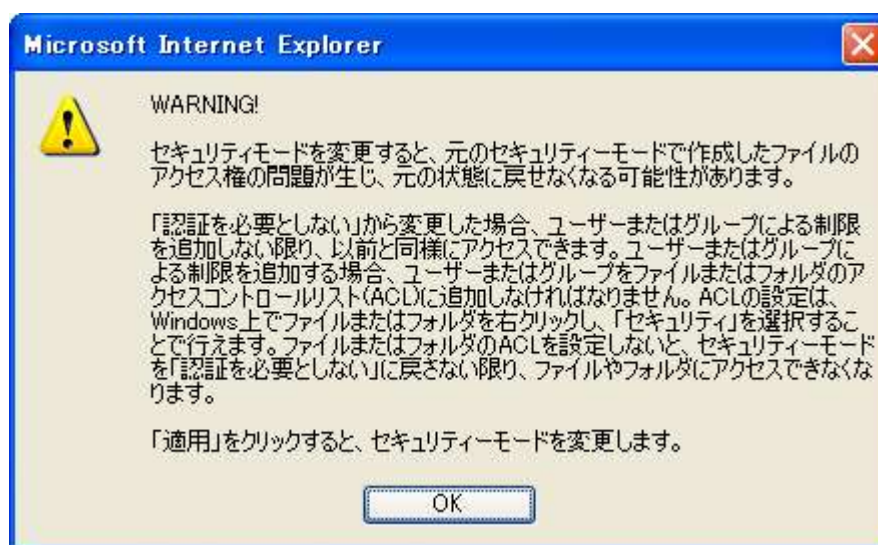
1. FrontView を表示させます。
2. FrontView 画面左下の[詳細設定]ボタンをクリックして詳細設定モードにします。(既に詳細設定モードになっている場合、この操作は必要ありません。下図は詳細設定モードの時のウィンドウです)



3. セキュリティ設定のネットワーク環境タブで、ドメインコントローラによる認証を行うをチェックします。



4. 次のような警告ダイアログが表示されるので、内容を確認して[OK]ボタンをクリックします。



5. [適用]ボタンを押して、設定が反映されるとドメインに参加タブが表示されます。



6. ドメインに参加するために必要な情報を入力します。

項目	説明
ドメイン名	参加するドメインの名前 (例: Local)
ドメイン管理者 (Administrator)	参加するドメインの管理者アカウント名 (例: Administrator)
パスワード	参加するドメインの管理者パスワード
Realm	ATS1000 をアクティブディレクトリ環境で使用する場合、ADS realm サーバの DNS 名を入力してください。

7. [適用] ボタンをクリックすると次のようなダイアログが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



8. 認証に成功するとメッセージが表示されます。

アクセス制限の書式

①概要

ATS1000 は、ホスト名、IP アドレス、IP アドレス式のいずれかを用いてアクセス対象ホストを限定することができます。

以下の設定項目が対象になります。

- ファイルアクセスプロトコルごとのホスト制限設定
- SNMP のモニタホスト制限設定

②IP アドレス式

IP アドレス式は以下のどちらかの書式が使用できます。

- 192.168.0.0/255.255.255.0 (192.168.0.*全てのホストが対象)
- 192.168.0.0/24 (192.168.0.*全てのホストが対象)

/の前にはネットワークアドレス、/の後ろにはネットマスクあるいはマスクビット長を示します。

ダイアログメッセージ

FrontView にアクセスしている際に表示されるダイアログメッセージについて説明します。

ダイアログ	意味
	H D リムーブ ホットスワップ等で、ハードディスクが抜かれた状態になると表示されます。抜かれたハードディスクの番号が表示されます。
	H D 障害 なんらかの理由でハードディスクに障害が発生したことを示します。障害の起きたハードディスクの番号が表示されます。
	H D 追加 ホットスワップ等で一度抜かれたハードディスクの空きスペースに、新たなハードディスクを挿入した時に表示されます。
	再構成開始 RAID ボリュームを構成しているディスクに障害が生じた状況において、障害の原因が取り除かれ復旧処理を開始する時に表示されます。

ダイアログ	意味
	再起動 システムの再起動を行った場合に表 示されます。
	シャットダウン システムのシャットダウンを行った 場合に表示されます。
 ボリューム追加確認 ボリュームを追加する場合には再起動が必要です。この後、シャットダウンタブでシステムを再起動してください。	
	ボリューム追加完了 ボリュームの追加操作の後に再起動 した際、ボリュームの追加が正常に 完了したときに表示されます。

ダイアログ	意味
	共有追加 共有の追加が完了したときに表示されます。追加した共有名が表示されます。
	ユーザ追加 新たにユーザを追加したときに表示されます。追加したユーザ名が表示されます。
	セキュリティモードの変更完了 セキュリティモードを変更した時、設定がシステムに正常に反映された場合に表示されます。
	サービスの再起動確認 セキュリティの設定を変更した時など、サービスを再起動する必要がある場合に表示されます。サービスが正常に再起動すると、現在のページが更新されます。

ダイアログ	意味
	サービスの再起動完了 サービスの再起動が完了すると表示されます。